○ 高校生の募集

秋田市を含む管内 19 高校に対しチラシ・ポスター及び文書で高校生への周知を依頼（県保健体育課においても、県立高校への事業協力依頼文書を送付）。9 校から 29 名の参加があったが、うち 4 校 21 名は学校単位のまとめての参加となるなど、少しずつではあるが、高校の理解・協力が得られてきたことを感じた。

○ 先輩ピアのフォローアップ研修と活動

今年度新たな試みとして、先輩ピアに対するフォローアップ研修を実施した。今年度養成ピアの実践に対する的確な助言・指導を行うなど、2 年間継続することによりピアカウンセラーとしても能力の向上に結びついたことを感じた。県南部で実施した実践においても、昨年度からの大きな進歩が見られた。

3．事業の成果と今後の課題

1）教育関係者との連携

（1）短大等との連携

事業を実施した 3 年間にわたり、県立短大、日赤短大、県立衛看の 3 校の学生を対象としたが、学校側におけるピアカウンセリングへの理解・協力については、着実な進展が図られた。特に、日赤短大においてはサークル活動を通じた学生指導も行われている。

一方で、事業の実施にあたり、学生の所属が 3 校にまたがるうえ、その場所が離れていることから、養成講座等の日程調整を含め、事前準備にあたり、苦労した面もあった。

（2）高校との連携

ピアカウンセリングの実践に参加する高校生の募集については、毎年，苦労することが多かった。年々、高校側の理解が得られてきたことについては、一定の手応えを感じるものの、より幅広い普及を図るためには、高校関係者の一層の理解を得るための働きかけを引き続いて行うとともに、高校生が気軽にピアカウンセリングに参加できるような環境づくりが必要と考える。今回「高校生のためのピアカウンセリング」実践ビデオを作成し、普及啓発のために配布した。

2）ピアカウンセラーの養成

（1）養成研修

14 年度、15 年度の 2 ヶ年は、研究班で作成したカリキュラムに基づき、日赤短大の羽入氏の指導の下で実施したが、養成研修については、サポーターとしての先輩ピアの活用など、効果的・効率的な実施方法が確立されつつあることを感じた。

また、研修自体が、学生の主体的な判断を尊重した内容となっていることから、参加した学生において、ピアカウンセリングの実践を通じ、充実感や達成感を感じることができたものと考える。

（2）フォローアップ研修

今年度、新たに実施した先輩ピアへのフォローアップ研修の実施を通じ、2 ヶ年にわたる研修の成果としての個人のピアカウンセリング能力の向上、後輩ピアに対する指導体制の充実等の効果が得られた。ピアカウンセリングに関する取り組みを、地域に根ざしたものとするためには、こうした継続的な取り組みが重要と考える。

3）まとめ

3 年間の事業を通じ、ピアカウンセラーの養成を含めた手法の検討や、実践を通じたピアカウンセリングの有効性の確認などの面で、大きな成果が得られたものと考える。

また、徐々ではあるが、管内の高校関係者の理解が深まっていることに加え、県内他地域で当部で養成した学生を活用してのピアカウンセリングの実践など、普及の面においても、着実な進展が見られた。

１６年度からは本事業が当部で要望してきたように、学校の枠組みを越えたピ

アカウンセラーの養成体制の構築、県内各地域での高校生へのピアカウンセリングの実践など、全県的な取り組みに向けて、秋田県において取り組むことになりそうである。今後当部においては、ピアカウンセリングの実践の場の提供など普及定着に向けた取り組みを推進することとしている。

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

ピアカウンセリング手法による健康教育（性教育）に関する取組み

共同研究者　本間マキ・及川祥子　岩手県一関保健所保健課

A.事業の目的

管内の 10 代人工妊娠中絶数の増加と、性感染症が 10 代～20 代の若者に集中している。(図１)このような状況を踏まえ、当所では、昨年度よりピアカウンセリング手法による健康教育を実施してきた。今年度は、本事業の地域への定着と参加者の拡大を図るため、種々の方法を試行したので報告する。

B.実施方法

１関係機関との連携(図２)

平成 15 年 5 月:管内高等学校を巡回し、校長、養護教諭等へ本事業への協力を依頼した。6 月に思春期保健ピアカウンセリング推進連絡会を開催し、14 年度実績と 15 年度実施計画を検討した。

平成 16 年 3 月:両磐地域思春期保健連絡会で、本地域の思春期保健の問題と対策を協議し、本事業の継続実施が決定した。

２高校生のためのピアカウンセリング事業の実施

保健所が開催窓口となり、管内高校からの参加申し込みを受け開催した。会場は、保健所、町保健センター、町公民館と学校から離れた場所で開催した。開催時期は、長期休業の始まりと終わりの比較的、高校生が暇な時期を選んだ。

３ピアカウンセラーの養成

平成 15 年 8 月:第３回ピアカウンセリング集中講座へ１年生２名を派遣。

平成 15 年 10 月:東北４県合同ピアカウンセラー養成セミナーへ１年生５名を派遣。

C.実施結果

１高校生のためのピアカウンセリング開催状況(表１)

(1)参加数は、初年度である昨年度より僅かに減少したが、参加校は増加し管内の私立高校１校を除いて全校からの参加を得られた。交通の不便な地域での開催を増やしたことで、その地域での参加者は増えた。年度内に２～３回参加したリピーターも数名いた。

(2)参加後、３ヶ月経過してのアンケートを行った。（対象数 60 名、回答数 52 名、回答率 86.6%）

47 人(90%)が「受けてよかった」と回答し、時間が経過してもピアカウンセリグが参加者にとってよいものであることが言える。「参加して得た内容が今の考えや行動に影響を与えている」と回答した人は 22 人(42.3%)いるが、「どちらとも言えない」25 人(48.1%)と「思わない」5 人(9.6%)が上回った。(表２)

参加してよかったが、一度ピアカウンセリングを受講しただけでは、その後の行動変容までには結びつきにくいようである。参加して得た内容を伝えた人は、32 人(62%)で、そのうち友達に伝える人が一番多く、やはり、同年代の仲間同士で共有していることが分かった。

２関係機関との連携

各連絡会での話題提供、実際のピアカウンセリグの見学等により関係者間での周知、理解は進んでいるように思える。

３ピアカンセラーの養成

今年度は、福島で養成セミナーが開催され、カウンセラー全員がなんらかの形で基本的な研修を受けることができた。

基本的な知識とともに、先輩カウンセラーからの精神的な学習があり、自分自身が大変成長できたとの感想であった。

D.考察

１高校生のためのピアカウンセリング事業は地域の健康教育として除々に定着しつつあるが、生徒自身からの個人的応募は少なく、学校養護教諭からの推薦による参加が多いため、一般教師を含めた広報活動の工夫が必要である。

２ピアカウンセリング事業は、カウンセラー側である高等看護学院のカリキュラム上、現在の開催回数が限界であり、ピアカウンセリングに加えての系統的な性教育の実施が必須である。

３継続的なカウンセラー養成が必要であるが、財源確保が課題であり、活動期間が短く質の高いピアカウンセラーを毎年継続養成するには、養成できる機関が身近にあることが必要である。

D.結論

小中学校から高等学校への養護教諭の連携が少なく、性教育を系統的に実施していくためには実務レベルでの連携を図る必要があろう。

本技法を取り入れた健康教育は、地域に除々に定着しつつあるも、類似の事業を県内数箇所で取り組み始めていることから、県内でのカウンセラー同士の交流を含め、質の高いカウンセラーの養

成が急務である。また、カウンセラーを日常的に支え、育てる立場の指導者の養成研修も、本技法を地域の健康教育のツールとして定着させるためには不可欠である。

図１　10代の人工妊娠中絶数年次推移（一関保健所管内）

	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
10代件数	29	25	40	43	35	28	47	50	63	58	55

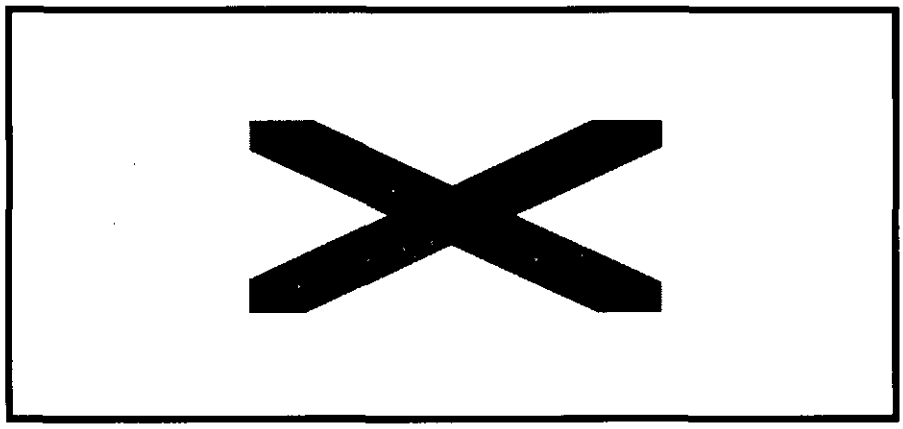


図２　思春期保健ピアカウンセリング事業連携図

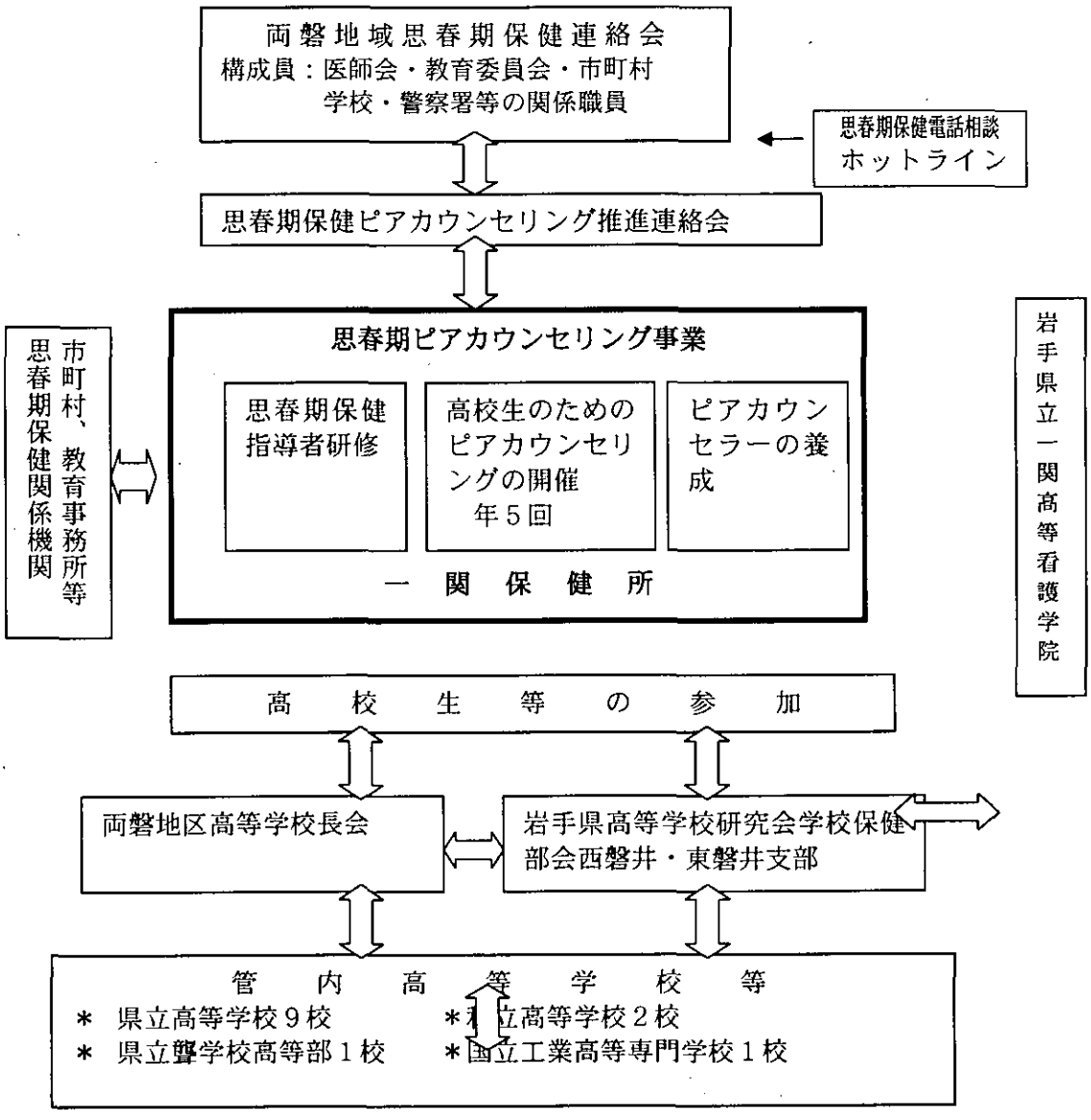


表１　高校生のためのピアカウンセリング開催状況

参加者数	総数（延べ）	西磐井地区高校（参加校は実数）	東磐井地区高校（参加校は実数）	県立高校以外（参加数は実数）	ピアカウンセラー数（実数）
14年度 4回実施	108人	79人（参加校５校）	27人（参加校４校）	2人（参加校１校）	15人
15年度 5回実施	97人	52人（参加校６校）	40人（参加校４校）	5人（参加校２校）	14人 見学　4人

表２　参加して得た内容が今のあなたの考えや行動に影響を与えているとおもいますか。

	男子	女子	全体	%
与えていると思う	1人	21人	22人	42.3%
思わない	1人	4人	5人	9.6%
どちらとも言えない	8人	17人	25人	48.1%

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

山形県置賜（おきたま）地域における思春期ピアカウンセリング事業の取り組み

共同研究者：山田孝子、前田真由美、山崎彩子　山形県置賜保健所地域保健予防課

1　はじめに

健やか親子２１の主要課題の１つである「思春期保健対策の強化と健康教育の推進」の項目の中で思春期の性と健康の問題に対する地域の取り組みとしてピアカウンセリングの推進が提言されている。

山形県置賜保健所では、平成１４年度から思春期保健事業の一環として管内の高校生を対象とした「ピアカウンセリングで学ぶ高校生のためのセクシャリティ講座」を実施している。本稿では、２年間の取り組みの概要と今後の課題について報告する。

2　置賜地域の概況

（1）地域の概要

置賜地域は、山形県を村山地域・最上地域・庄内地域とともに４つに分ける一地域であり、県南部に位置している。置賜保健所は置賜地域全域を管轄している。

置賜地域は、磐梯朝日国立公園の吾妻・飯豊・朝日連峰にかこまれ、最上川水系に拓けた置賜盆地と荒川水系の小国盆地からなっている。県の南部に位置し宮城県、福島県及び新潟県に隣接し、３市５町で、総面積は２，４９５．５２k㎡で山形県全体の２６．８％、総人口は２４３，９５７人で山形県全体の１９．７％を占めている。

県内有数の電気機械工業等の集積地であり、優れた自然景観と赤湯、小野川、白布など数多くの温泉群、伊達氏、上杉氏の史跡など観光資源を有している。

教育機関として、県立高等学校１３校（うち定時制１校、分校1校）、私立高等学校３校、国立大学１学部、県立短期大学１校、私立看護専門学校１校がある。

（2）母性保健上の課題

人工妊娠中絶届出数及び人工妊娠中絶実施率については、国・県・置賜地域は同様に減少してきたが平成７年頃から横ばい状態である。２０歳未満に占める割合及び実施率は、国及び県は年々増加傾向を示しており、その中でも県は国より高い値を示している。置賜地域は、県よりは低く、国とほぼ同様の値である。

県における１１週までと１２週以降の人工妊娠中絶割合の年次推移は同様な状態である。しかし、県内４地域別にみると１２週以降の割合が置賜地域で特に多く母性保健上大きな課題と思われた。

また、平成９年～１１年の３年間における年齢別割合をみると、国・県・置賜地域は同じく２０～２４歳が一番多く大きなピークをつくっている。そのほか３５歳～３９歳までは、緩徐に減少し４０歳以降急激に減少する。

このことから、今後の課題となる３つのことが考えられる。一つ目は、２４歳以下の若年層をターゲットとした「望まない妊娠」を予防する対策を強化すること、二つ目は、万が一望まない妊娠をしてしまった場合、母体保護上早期に問題に対処できるように対策を検討していくこと、三つ目は、３５歳～４４歳をターゲットにした計画外妊娠を予防する対策を検討することと思われる。

2　これまでの保健所における思春期保健対策

これまで置賜保健所では、「生涯を通じた女性の健康支援事業」・「エイズ対策特別促進事業」・「健康文化やまがた２１」推進事業を通し、

学校保健と連携して思春期保健に関する講演会形式の健康教育を実施してきた。
また、「生涯を通じた女性の健康支援事業」・「エイズ対策特別促進事業」では、定例の健康相談等を実施してきた。

3　思春期ピアカウンセリング取り組みの経過

（1）平成１４年度

①保健所職員の資質の確保

地域で思春期ピアカウンセリングを立ち上げるために保健所として何を行えばよいのか手探りのなか、福島県及び岩手県における先進保健所の取り組みから多大な教示を得た。

また、日本家族計画協会主催の研修会参加によりコーディネーターの役割を認識し必要な知識と技術を習得することができた。（表１）

②地域における思春期ピアカウンセリングの周知

地域のなかで思春期ピアカウンセリンを推進するためには思春期保健に関する関係機関がピアカウンセリングの必要性への共通理解を持つことが必要である。

そのために、教育や市町保健行政関係者等を対象として講習会を自治医科大学の協力を得て開催し、その講習の一貫として、第１回「ピアカウンセリングで学ぶ高校生のためのセクシャリティ講座」を開催した。（表１）

（2）平成１５年度

①地域におけるネットワーク体制整備

「ピアカウンセリングで学ぶ高校生のためのセクシャリティ講座」の定着化を図るために、高等学校との連携が特に重要であり、「置賜地区高等学校教育研究会保健養護部会」の代表者に高校側の連絡調整窓口としての役割を依頼した。（図１）

②ピアカウンセラーの養成

地域内にピアカウンセラーが一人もいない状況であるため、管内にある三友堂病院看護専門学校の協力を得て、学生から「東北４県合同ピアカウンセラー養成講座」受講希望を募り派遣した。

（「東北４県合同ピアカウンセラー養成講座」は、厚生労働科学研究「ピアカウンセリングエデュケーションのマニュアル作成及び効果的普及に関する研究」＜自治医科大学高村教授＞の一貫として開催された。）

③第２回「ピアカウンセリングで学ぶ高校生のためのセクシャリティ講座」の開催

地域内にピアカウンセラーが誕生したことと、ピアカウンセラーのサポートについて三友堂病院看護専門学校から全面的な協力が得られたことと「置賜地区高等学校教育研究会保健養護部会」から、各学校内部の連絡調整について協力が得られたことにより講座の企画から実施まで地域で行うことができた。（図１）

5　今後の課題

（1）ピアカウンセラーの継続的な養成について

毎年、継続的に安定的にピアカウンセラーを養成することが必要である。
地域内には、養成することができる養成者がいないため、近県の先進保健所等の協力や協働を得ながら工夫していく必要がある。

（2）ピアカウンセラーのサポートについて

ピアカウンセラーに対する日常的なサポート及び講座開催に向けたサポートまで量的にも質的にもその役割は大きく重要である。当地域においては、一機関がその役割を担うことは負担が多きすぎるため、複数の関係機関が役割を分担しサポート体制を組むことが必要である。

（3）関係機関との継続的な連携・調整について

対象が思春期の若者であり、そのほとんどが学校という集団に属していることから、講座の周知から受講後のフォローまで学校との連携なくしては思春期のピアカウンセリングはすすめられない。

今後も「置賜地区高等学校教育研究会保健養護部会」を中心とした学校との連携が必要である。

また、市町の保健行政及び社会教育の分野が実施している思春期保健対策との連携も必要である。

（4）一地域の限界・県全体での取り組みについて

以上、3つの課題は、どれをみても一地域では、根本的な解決は困難である。

若者に対し、地域の中で「ピアカウンセリングで学ぶ高校生のためのセクシャリティ講座」という健康教育の環境を整えるために、思春期ピアカウンセリングの取り組みが拡大されていくことが必要である。

6　おわりに

置賜保健所が思春期保健対策事業の一環として思春期ピアカウンセリングに取り組み始めて2年しか経過しておらず、今後の事業展開においては、課題が山積している。

しかし、過去2回の講座受講生からは、「内容がわかりやすい。」「生きることについて性について考えることができた。」「他の高校生の様々な意見を知ることができた。」など大変好評を得ている。

性教育の基本はあくまで学校教育及び家庭教育でなされるものであるが、地域における健康教育の環境を整備することも地域保健の役割であると思う。

保健所には地域支援の一環とした先駆的な取り組みが期待されており、この取り組みがやがては置賜地域に根をおろすことができるように続けていきたい。

本事業の取り組みに熱心にご指導をいただいた自治医科大学高村教授に感謝申し上げます。また、2年間にわたりご協力いただいた三友堂病院看護専門学校、置賜地区高等学校教育研究会保健養護部会の方々に厚くお礼申し上げます。

参考文献

1）松本清一監修、高村寿子編著：『性の自己決定能力を育てるピアカウンセリング』，小学館(2002)

2）松本清一監修、高村寿子編著：『性：セクシャリティの看護－QOLの向上を目指して－』，建帛社(2002)

図1　平成１５年度ピアカウンセリングで学ぶ「高校生のためのセクシャリティ講座」の進め方

全体の進め方	置賜保健所	三友堂病院看護専門学校	山形県置賜地区高等学校教育研究会保健養護部会	備考(時期の目安等)
講座実施についての連絡調整	○ →	→	→	１０月
各高校の学校長に対して訪問し協力依頼	○ 周知と申し込みの取りまとめ依頼			１１月第１週
ピアカウンセリング連絡会議	○ 実施概要について、当日までの準備計画・当日の役割分担など ＊実施プログラム決定	○	代表校 ○	１１月第２週
ピアカウンセラーとの打ち合わせ	○ ＊ピアカウンセラーとの日程・内容・必要物品等の最終打ち合わせ	○	○	１２月第２週
ピアカウンセリング実施	○ ピアカウンセリングが円滑に実施できるようにバックアップ	○	○	１２月１９日
フォローアップ			○ ・受講した生徒のフォロー ・学校内部への報告	
ピアカウンセリング連絡会議	○ ＊ピアカウンセラーと反省会	○	代表校 ○	１月２８日

表１　置賜保健所における思春期ピアカウンセリングの取り組み

平成１４年　７月	福島県県北保健福祉事務所事業視察
平成１４年　８月	岩手県一関保健所事業視察 ○　「ピアカウンセリング」実際の見学
平成１４年１２月	日本家族計画協会主催の「第２回ピアカウンセリング指導者研究集会」に保健所から２名派遣
平成１５年　３月	思春期ピアカウンセリング指導者講習会開催（地域保健推進特別事業） 第１日目：理論編
１５日	講義：「今なぜピアカウンセリングなのか」、「ピアカウンセリングを受講した子どもへのサポートについて」 講師：自治医科大学看護学部　教授　高村寿子氏
１６日	参加者数：思春期保健関係者　２８名 第２日目：実技編 ピアカウンセリングで学ぶ「高校生のためのセクシャリティ講座」の見学をあてる。 参加者数：思春期保健関係者　２９名
１６日	第１回ピアカウンセリングで学ぶ「高校生のためのセクシャリティ講座」開催 ＊思春期ピアカウンセリング指導者講習会第２日目同日開催 講　師：自治医科大学看護学部ピアカウンセラー１１人 指導者：自治医科大学看護学部　教授　高村寿子氏 参加高校生：２９名 参加学　生：１５名(三友堂病院看護専門学校)
平成１５年１０月	東北合同ピアカウンセラー養成講座(福島県福島市内で開催)へ８名派遣
１２月	地元ピアカウンセラーによる初めての第２回ピアカウンセリングで学ぶ「高校生のためのセクシャリティ講座」開催 講　師：三友堂病院看護専門学校ピアカウンセラー８人 指導者：三友堂病院看護専門学校　副校長　三身千賀子氏 参加高校生：４０名 高等学校関係者等の同席数：１４名

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

福島県のピアカウンセリング事業の取り組み

共同研究者：逸見京子　福島県県北保健福祉事務所

Ⅰ　はじめに

県北保健福祉事務所（以下「当事務所」とする）管内の１０代の人工妊娠中絶率は１５.０(平成１３年)で福島県の１９.４よりは低いが、全国の１３.０よりは高い値である。また、１０代の性感染症の罹患率も増加傾向にある。

当事務所においてはそれらの課題解決に向けて、従来の学校への出前講座による性教育に加えて、平成１２年度には、思春期保健事業にピアカウンセリング手法を導入し、「ピアカウンセラー養成セミナー」を開催し、福島県立医大看護学部生をピアカウンセラーとして養成した。それ以後は、同セミナーで養成されたピアカウンセラーらで組織する同大学のピアカウンセリングサークルの協力を得て「高校生のためのセクシュアリティ講座」を実施してきた。

そして、平成１５年度は更に発展させ、地域の中に、思春期の若者が気軽に立ち寄れる場所でピアカウンセラーとの相談や交流ができ、性などの情報も得られる場である「ピアスペース」の開設を主軸とし、それを支えるピアサポーターの養成等で構成する「ピアカウンセラーによる思春期相談事業」を実施したので報告する。

Ⅱ　管内の概況

当事務所の管轄区域は、県庁所在地である福島市をはじめ、２市１３町２村で、県の北部に位置し、面積は1,753.24ｋ㎡で県土の12.8%を占めると共に、人口は514,527人（H15.5.1現在）で県全体の24.4%を占めている。

また、福島市の中心部は本地域の中核都市として高次の都市機能を持ち、同市の周辺部や郡部は全国有数の果樹産地であり、ニット・絹・繊維織物などの地場産業、温泉やスキーなどの観光資源も有している。

当事務所管内は、福島大学をはじめ、福島県立医科大学、その他１大学、２短大を有し、学術的にも福島県の中心的地域である。

Ⅲ　事業の概要

1　ピアスペースの開設
2　思春期保健セミナーの開催
3　思春期保健サポーター（以下「ピアサポーター」とする）の養成
4　ピアカウンセラーの育成
5　思春期保健ﾈｯﾄﾜｰｸ会議の設置

Ⅳ　総事業費

地方振興局企画調整事業費
７８９千円

Ⅴ　事業実施前の準備

1　ピアカウンセラーとの打ち合わせ

ピアカウンセラー指導者を交え、ピアカウンセラーと開催場所、企画内容の検討を実施。同年代で思春期の若者に近い感覚のピアカウンセラーの意見を取り入れ、思春期の若者が利用しやすいスペース作りを心がけた。

2　思春期保健ﾈｯﾄﾜｰｸ会議の設置

保健・医療・教育・市民団体等思春期保健関係機関が一堂に会する同会議を設置し、事業内容を関係機関に周知すると共に、意見交換を実施し、事業実施に向けて協力を要請した。

3　所内体制

当事務所に思春期保健ワーキンググループを設置し、思春期保健担当以外の企画、精神保健、感染症予防、喫煙予防等思春期に関わる問題を担当するグループ

の代表を交えて、企画内容の検討を実施した。

4　事業のＰＲ

ピアスペースの開催ＰＲと性に関する情報を盛り込んだ折りたたみ式のポケットサイズのリーフレットを管内の中学生・高校生に各一部できるよう３万５千部作成し、配布した。

その他、新聞各紙、ラジオで開催内容をＰＲすると共に、事業実施途中には、ＮＨＫのテレビ番組、タウン誌でも取り上げていただき、対象者の周知に努めた。

Ⅵ　事業の実施結果

1　ピアスペースの開設（図１）

(1)開催期間：平成１５年８月
～平成１６年２月

(2)開催日時：月１回土曜日
１３：３０～１７：３０

(3)開催場所：福島駅駅ビル５階貸会場

(4)対象者：１０代の若者
１０代の若者の性に悩む者

(5)スタッフの構成

○ピアカウンセラー：１回４～１２名
（県立医大看護学部ﾋﾟｱｶｳﾝｾﾗｰ）

○ピアサポーター：１回１～２名
（市民団体「福島・性を考える会」会員）

○当事務所職員：１回３～５名

(6)実施内容

○オープンスペースでのピアカウンセラーとの相談・交流

○専門相談

○思春期の性の関する情報展示

(7)来場者数：合計８９人（表１）
思春期本人７１名、その他１８名

(8)来場者の状況

アンケート結果（回収率60.6%）を見ると、来場目的としては、どんな所かてみたい」と回答した者が27名(62.8%)で一番多く、「情報を得たい」７名(16.3%)、「相談したい」２名(4.6%)と続いた。

来場者の状況としては、新しいピアスペースに興味をもち立ち寄り、ピアカウンセラーとの交流により、性に関する正しい知識を得たり、話をしていく中で、性に関する相談もしていくという来場者が多かった。（表２）

(9)ピアスペース開催時に留意した点

○思春期の若者が立ち寄りやすい会場の選定

○若者の目に触れやすいＰＲ方法

○ピアカウンセラーの声を反映したスペース作り

○ピアカウンセラーの相談の範囲と専門相談への誘導

○スタッフの安全確保（出入りは貸し会場職員通用口を使用しストーカー行為の予防。ピアサポーターの傷害保険の加入）

2　思春期保健セミナーの開催

(1)若者のためのセクシュアリティ講座
（以下「セクシュアリティ講座」とする）

○開催日時：平成16年２月８日(日)
１０：００～１６：００

○参加者：高校生等２５名

○スタッフ：

・ピアカウンセラー13名
（県立医大ﾋﾟｱｶｳﾝｾﾗｰ）

・当事務所職員　　２名

○内容：

・自分らしく生きるって？自分を見つめよう！

・考えてみよう～セクシュアリティって？避妊、ＳＴＤって？

・ロールプレイを通してのネゴシエイト（交渉術）

(2)ピアスペースと同時開催のﾐﾆ講座

○内容：

性に関するクイズ、エゴグラム体験、性感染症、エイズに関する資料展示、タバコに関するクイズ等をテーマとし、運営は当事務所スタッフが実施した。

3　ピアサポーターの養成

(1)「ピアサポーター」とは

思春期保健に意欲と関心があり、ピアスペースにおける専門相談、企画運営に協力し、かつ、その他思春期保健事業に協力する人材

(2)研修会の開催(表３)

○開催回数：５回

○対象者：

ピアカウンセリング手法による思春

期保健に関する展開を学びたい者

○参加者：

教育・保健・医療・性に関する市民団体等関係者が参加

(3)ピアサポーターの公募（表４）

ピアサポーターとして活動する地域の人材を研修修了者のみならず、新聞報道を利用して、１０代サポーター、大人サポーター、専門サポーターを一般の方から広く募集し、応募者で組織する「ピアサポーターの会」が結成され、平成１６年２月に活動が開始された。

４　ピアカウンセラーの育成

ピアカウンセラーの増員を図るため、当研究班が主催する「東北４県ピアカウンセラーセミナー」に福島県立医科大学看護学部より推薦された１０名の学生を派遣した。

○受講者中ピアカウンセラーとして活動している者：７名

５　思春期保健ﾈｯﾄﾜｰｸ会議の設置

当事業を地域の思春期関係者に周知し、事業が円滑により効果的に推進できるよう、関係機関との意見交換、情報交換を実施すると共に協力を要請した。

また、その他、地域の思春期保健に関する意見交換や「思春期ピアカウンセリング展開に向けたネットワークづくり」と題して研修会を実施した。

○　開催回数：３回

６　事業実施上それぞれの機関が担った役割（表５）

Ⅶ　事業を実施しての成果

１　ピアスペースの開設

ピアスペースを開設したことで、思春期の若者が気軽に立ち寄れる場所に、性に関して正しい知識を得ながらピアカウンセリングが受けられる場として、地域の相談窓口の選択肢を増やすことができた。

２　思春期の関わる人材の育成

(1)ピアカウンセラー

○活動の活性化

ピアスペースを開設したことで活動の機会が増え、実施内容の検討、展示資料の作成等の準備、実際に思春期の若者にピアカウンセリングを実施したこと等を通して、活動の活性化が図られた。

○人員増

当事務所管内のピアカウンセラー数は約２０名で、毎年新旧交代が図られている。今回、「ピアカウンセラー養成セミナー」に候補生を派遣し、ピアカウンセラー７名の人員増ができた。

(2)ピアサポーター

研修会、ボランティア募集により、思春期保健に意欲と関心がある１９名がピアサポーターの会を結成するに至った。地域の中に行政と共に思春期保健事業に取り組む市民グループができたことは、今後の思春期保健事業を発展させる上で、大きな成果といえる。

３　地域の思春期ネットワークの構築

思春期保健は教育・保健・医療等様々な分野での取り組みがなされているが、お互いが交流する機会はそれほど多くないのが現状であった。しかし、今年度に事業を推進していく中で、会議、研修、日々の事業についての連絡等を通し、関係者とのネットワークが生まれてきたと考える。そして、性の問題について、危機感を抱いている養護教諭等の方々から、学校現場の若者の現状について色々な場面で地域保健サイドに情報を提供していただくと共に、積極的に事業展開へのご意見等をいただいている。

４　マスメディアへの情報提供

事業実施に際して、ＰＲのためテレビ、新聞、タウン誌等に情報提供し取り上げていただいたことで、思春期の性の問題と取り組み内容やその必要性について、広く一般の方々に周知することができ、管外から問い合わせやテレビを見た保護者の方がピアスペースに立ち寄ったり、問題意識をもつ方々が増えた事が副次的効果と言える。

Ⅷ　今後の課題

１　「ピアスペース」の継続的運営

今年度の来場者数は決して多くはないと考えるが、「今後も継続して開催し、思春期の若者が気軽に活用できる相談窓口の一つとして、今後も地域に定着させてほしい」との学校関係者からの意見もいただいている。

ピアスペース開催は今後も継続し、思春期の若者が必要な時に立ち寄れる場として地域に認知されていく必要がある。そのための課題として以下の(1)(2)が上げられる。

(1)対象者への周知

ピアスペースについては、ＰＲリーフレットやマスコミ各社を活用し、周知に努めてきたが、まだまだ十分に認知されていない現状である。また、各中学高等学校に配布したＰＲ用リーフレットは、性に関する情報が含まれているため、学校長の判断により、配布されなかった学校もあった。

今後はピアカウンセラーや「ピアサポーターの会」と効果的な周知方法についても検討しながら、思春期の若者への周知に努めていきたい。

また、学校や医療現場の思春期の若者と身近に接している関係者の理解と協力を得ながら、実施していきたい。

(2)運営体制の整備

継続して運営し、地域に定着させるためには、行政とピアカウンセラーのみでは限界がある。思春期保健に意欲と関心があり、その問題の解決に意欲を持ち、活動に賛同してくださる地域の人材としての「ピアサポーターの会」の組織を更に育成し、ピアスペースの企画運営に積極的に関与して頂ける体制を整備し、将来的には「ピアサポーターの会」等が主体となって運営できる体制整備をしていきたい。

また、予算確保として、平成１６年度「地域保健推進特別事業」に申請中である。しかし、予算確保が困難な場合にも、ピアスペースを継続して運営できるよう、平成１６年度は費用のかからない会場を借用し、スタッフにはボランティアとしての協力をお願いし開催する予定としている。

また、本年度は、初年度であり、情報提供のための展示にも力を入れ開催したため、展示資料のための会場設営にもスタッフを要したが、次年度は、今後の事業の長期継続に向け、開催時の負担が少ない方法を検討していきたい。

そして、ピアカウンセラー及びピアサポーターに企画段階からの参画を得、より多くの若者が利用できる、利用したいと思うスペース作りを実施していきたい。

２　ピアカウンセラーの養成

当事務所管内のピアカウンセラーは、約２０名である。今年度は「ピアスペース」と「セクシュアリティ講座」に協力頂いているが、現在の活動量でも負担が大きく、所属する学校の立地条件、カリキュラムから、活動も限定されているのが現状である。

今後、ピアカウンセリング手法を活用したより効果的な事業を地域に広めていくためには、更に多くのピアカウンセラーの養成を図る必要がある。

３　思春期保健ﾈｯﾄﾜｰｸの構築と強化

今年度は、管内の思春期保健関係者と意見交換しながら事業が展開できた。

今後も更に、思春期保健の問題に関連している地域の関係機関が連携し、情報交換や意見交換を図りながら、地域の思春期保健の向上のために必要な施策を検討し、協力し合って推進できる体制を整備する必要がある。

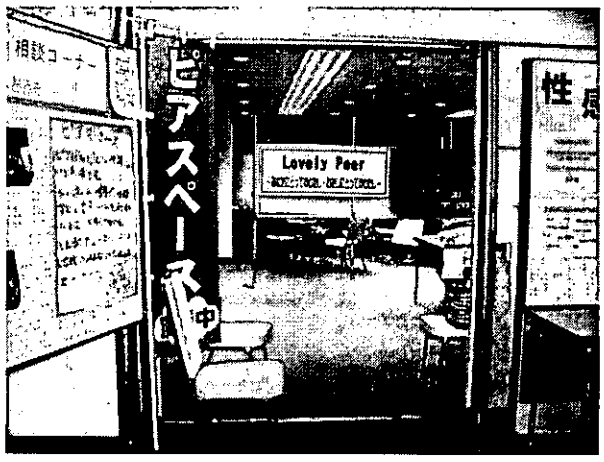
Ⅸ　おわりに

今年度は、従来の「セクシュアリティ講座」に加えて、新しい試みとして、思春期の若者の「相談と情報入手」の場であるピスペースを開設した。

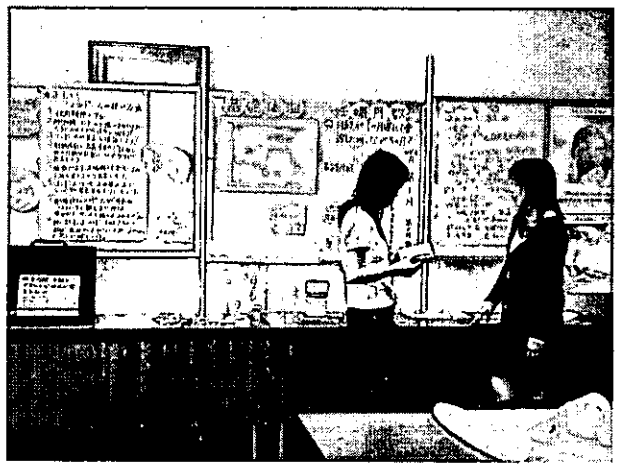
開設していく過程では、思春期の若者の自己決定への支援の他に、様々な成果が得られた。

今後も「ピアスペース」を核として、当事務所管内のピアカウンセリング事業を推進していきたい。

図1 ピアスペース開催風景



ピアスペースの会場



ピアスペース内の展示資料の一例

表1 ピアスペース来場者数 (人)

区分	一般相談			専門相談
	種別毎計	内 訳	合 計	
本人	71	中学生	4	
		高校生	43	
		短大・大学生	7	
		専門学校生	6	
		社会人	11	
その他	18	保護者	3	1
		関係者	12	
		その他	3	1
合計	89		89	2

(注)関係者には市町村保健師、ピアサポーターボランティア応募者等を計上した。

表2 ピアスペースにおける相談の具体例

・入試、進路、将来について ・身近な友人のSEX経験にショックを受けた件について ・彼氏彼女との仲直りの方法について ・彼女とのつきあい方について ・コンドームをつけるタイミングについて

表3 ピアサポーター養成セミナーの研修内容

開催年月日	主な研修内容
平成15年 9月18日	『ピアスペースの展開について』 報告者 県北保健福祉事務所 事業担当者 『ピアカウンセリング総論』 ～ピアカウンセリングの基本～ 講師 県立医科大学看護学部講師 石田登喜子
平成15年10月21日	『婦人科クリニックから見える現状』 講師 西口クリニック院長 野口まゆみ 『ピアスペースでの活動について』 講師 県立医科大学看護学部講師 石田登喜子 Dear Peerメンバー
平成15年12月 1日	『ピアカウンセリングの取り組みに向けて』 報告者 福島県立川俣高等学校養護教諭 高橋美代子 『今後のピアカウンセリング実践に向けて』 講師 県立医科大学看護学部講師 石田登喜子
平成15年12月19日	(ネットワーク強化研修を兼ねた公開研修会) 『思春期ピアカウンセリングの展開に向けたネットワークづくり』 講師 自治医科大学看護学部教授 高村寿子
平成16年 2月17日	『ピアスペースの取り組みの報告』 報告者 県北保健福祉事務所 事業担当者 『思春期のこころ』 講師 県北保健福祉事務所部長 内山清一 『ピアスペースの運営について』 ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ 県立医大看護学部講師 石田登喜子

表4 ピアサポーター登録数 (平成16年3月現在)

種別	役割	登録人数
10代サポーター	ピアスペースの開設時のサポート PR活動 企画運営の検討 その他	0
大人サポーター		7
専門サポーター	上記内容に加えて専門相談	12
計		19

表5　「ピアカウンセラーによる思春期相談事業」において関係者が担った役割

区　分	役　　割
県北保健福祉事務所	○事業の企画 ○予算の獲得と運用 ○関係機関との連携、調整 関係機関への協力要請、連絡調整、スタッフの配置、会場借用等 ○広報活動 ○必要物品の確保 ○事業の開催 会場設営、事業の進行、ピアスペース実施後ミーティングの進行、事業記録の整理 ○事業のまとめ（報告集作成、各種報告）
福島県立医大 看護学部	○ピアカウンセラーの養成、育成 ○ピアカウンセリング事業の企画内容への助言 ○ピアサポーター研修の講師 ○思春期保健ネットワーク会議への出席
ピアカウンセラー (福島県立医大看護学部生・医学部生)	○ピアスペースの企画に対して若者代表としての参画 ○ピアスペース、セクシュアリティ講座準備と実施 周知用チラシ原案作成、実施内容の検討、資料作成、会場設営、当日のピアカウンセリング、セクシュアリティ講座の実施、ピアスペース当日のPRチラシ配布 ○思春期ネットワーク会議への出席
ピアサポーター	○ピアスペースの専門相談 ○ピアスペースの企画内容への意見 ○思春期保健ネットワーク会議への出席
学校関係者	○ピアスペース、セクシュアリティ講座について対象者へ周知 ○思春期ネットワーク会議への出席
その他思春期保健関係機関	○後援 ○事業のPRに協力 ○思春期保健ネットワーク会議への出席

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

長野保健所におけるピアカウンセリング事業の取り組み

共同研究者：松本清美　長野県長野保健所

1 長野保健所の概要と取り組みの背景

長野保健所は、長野県の北部に位置し、平成9年地域保健法全面施行の際、4保健所が統合され、平成11年には管内であった長野市が中核市となり独自の保健所を持ったため、現在は長野市を除く周辺市町村2市5町8村を管轄している。総人口は平成15年4月1日現在207,218人。ちなみに長野市は359,853人である。

保健所においてエイズ・性感染症対策がきっかけとなり思春期世代への健康教育を始めて15年ほど経過している。小・中・高の学校現場からはまだまだ脅し教育が求められる現状のなかで出前教室を通じ思春期世代に対し地域の実情を踏まえながらの性教育を実施している。

しかし、保健師からの一方的な教育でなく、今を生きる子どもたちが自らの行動を判断し、自己決定する力や相手を尊重する力を持つ行動変容過程を支援する必要があると考えた。

そこで、ピアカウンセリング手法によるサポート体制づくりを保健所から教育、医療等他機関を巻き込みながら取り組んできた。

2　長野保健所における思春期保健推進体制について

（1）計画策定

平成14年度に「長野いきいき21」

すこやか親子計画を策定し、目指すべき地域の目標を明確にした。

目標を「生まれた子どもが自分の身体（からだ）を大切にし、自己決定することができる、根を張った子どもに育つ」とし、思春期世代の望ましい姿を「自分を大切にする」「自己決定できる」とした。

（2）関係機関との連携

平成14年度、地域全体で母子保健の課題に取り組むため、母子保健地域支援検討会（ハイリスク母子への支援システム確立）を立ち上げ、同年3月「10代の生と性」をテーマにシンポジウムを開催した。また、ピアカウンセリング実施に向けた支援活動整備を目的に、思春期保健推進検討会を立ち上げた。構成委員としては養護教諭（高校・小中学校）・産婦人科医師・保健師・児童相談所・教育事務所・大学助教授・助産師等の代表に依頼し2回開催した。

3　ピアカウンセラー養成講座開催へ向けた取り組み

“生・性・Say”―ピアカウンセリングによるサポート一事業として、平成15年度保健所機能強化推進事業に位置づけ体制づくりをし、思春期保健推進検討会で方向性を出し、委員それぞれが動き出すなか、8月から9月にかけて4日間のピアカウンセラー養成講座を実施した。

（1）ピアカウンセリングによる思春期保健の展開（別紙）

（2）ピアサポーターの確保（養成の協力、養成後の支援者）

- 産婦人科医師・・・思春期保健推進検討会助言者
- 長野赤十字看護専門学校・・・助産師教諭
- 信州大学・・・心理学教授
- 清泉女学院大学・・・思春期保健推進検討会助言者
- 県短期大学・・・保健体育助教授

（3）受講生募集（7月第2週～）

- ポスターを作成し貼付

・申込み書つきチラシを学校で配布
・長野赤十字看護学校ではビデオ上映（ピアカウンセリング実践記録）と説明会の開催
・ピアサポーターが学校ごとに呼びかけを実施

これらの対応により３４名の応募がある。

4　ピアカウンセラー養成講座の実施

（1）　日程およびプログラム

8月26日（火）	8月27日（水）
ピアカウンセリングの基本 ピアカウンセリング８つの誓約 思春期保健の現状	セクシャリティー総論 ＳＴＤ．ＨＩＶ．ＡＩＤＳ 中絶・避妊の知識 避妊のスキル コンドームネゴシエイト 恋愛に関する討論
9月6日（土）	9月7日（日）
アクティブリスニング コ・カウンセリング演習 実演企画	パートナーがＳＴＤに感染したら 実演企画発表 まとめとクロージング

研究班の助言を受けて作成

実施時間：午前９時から午後５時まで

（2）講師、スタッフ

・共同研究員（松本）が主担当
・研究班からの協力者（福島県　管野クニ）
・ピアサポーター（セクシャリティー補充、まとめの助言者）
産婦人科医師・助産師・高校養護教諭・大学助教授
・保健師（スタッフ）
長野保健所・長野市保健所

（3）結果

３０名が修了（女性２８名男性２名）

受講前後のレポートから見ると①性に対して前向きな受け止め②性に対してより学びを深めたいという意欲の向上③受講生間でピア意識の芽生えと支えあう安心感④今後ピアカウンセラーとして活動していこうとする意欲の高まり等、受講生自身に大きな変化が見られた。受講生の発言や行動から回を重ねるごとに積極性と意欲が感じ取れた。

若者にとって自己肯定感の高まりが自信となりエンパワーメントされることで、次の行動へと発展していく過程を目の当たりにした。

5　養成講座についての考察

終了時アンケート等から分析すると、時期については看護学校の場合８月末までが夏休みであるため、その期間中の実施が望ましい。期間は４日間であったが午前９時に始まり午後５時過ぎまで実施となりかなりハードであった。ピア（仲間）意識を高め、より話し合いを深めるために宿泊研修も検討する必要がある。今後もこの講座を継続していく為のマンパワー、場所、予算の確保が必要である。

6　養成後の状況

（1）ピアカウンセラーの活動

・サークルの立ち上げ
Happy Life ☺ Peers
（Ｈ・Ｌ・Ｐ）
・身近な友人へ伝えていく
・中学生との交流
・大学祭でのピアルーム開催
英文スピーチコンテストでの優勝→大学でのピア講座実施
・性感染症学会でのピアコーナー開催
・高校での思春期講座実施
・高校生へのピアカウンセリング実施

・思春期保健関係者に対し活動報告と意見交換会

（2）ピアカウンセラーへの支援体制

ア）サークルへの支援

保健師、産婦人科医師が中心に参加

イ）ピアサポーターとの活動の共有化、学内での支援

ウ）関係機関とのコーディネート

（3）関係機関への周知等

・思春期保健関係者研修会
・性教育の手引きへの資料提供（教育委員会）
・性の在り方検討委員会資料（教育委員会）
・助産師職能研修会
・日本女医会
・他保健所の研修会
・健康増進研究討論会

（4）県内への広がり

ア） 長野県主要事業への提案

「思春期ピアカウンセラー・システムづくり事業」として１６年度２保健所でモデル事業として実施することとなった。さらに１７年度以降県内へ反映していく

イ） 佐久保健所（厚生労働科学研究：学校保健との連携による健康教育の研究）にてピアカウンセラー養成実施

8　今後の課題

（1）地域の活動基盤づくり

・活動展開へ向けたピアカウンセリングの理解者拡大のための啓発
・ピアカウンセリングの実施への関係機関との調整
・学校保健と連携していくためのフローチャートづくり

（2） ピアカウンセラー養成継続

（3）サークルへの支援体制

・支援主体の検討と方向性
・ピアサポーターとの連携
・ピアサポーターの開拓
・活動拠点、活動費の確保

（4）ピアカウンセリング活動の評価方法の検討

8　まとめ

保健所がコーディネーターとしての動きとピアカウンセラーを育て支えていく役割を担った。そのために情報を集めながら、顔を合わせ、語り合うことを積み重ねていく中で人と人との広がりが出来ていった。長野保健所の思春期保健推進体制づくりのポイントは、地域でともに取り組む人材があった（キーマンの存在）事が大きい。ピアカウンセラーの養成をし、ピアと言う仲間を得た若者に寄り添う中で若者自身の自己肯定感の高まりが行動変容へつながっていくことが分かった。

今後の取り組みとしては、養成したピアカウンセラーなどの若者の自主性を大切にしていきながら、ピアサポーター、関係者とのネットワークを広げ、若者達が気軽に相談できる場の定着化とそのための支援体制づくりをすすめていきたい。ピアカウンセリングを１つの手法として「長野いきいき２１」すこやか親子計画の目標達成に向け思春期保健の推進をしていきたい。